

私は分析を 10 年くらい前に始めました。その頃の自分は大きな重圧に苦しんでいて、両肩にそれをのっけていると思うくらいでした。父は私が小さい頃自殺未遂をしていました。母もまた彼女がとてもまだ小さかった頃に、結核で両親を亡くし、悲しみが刻み込まれていました。そして私の誕生にも生命の危機が刻み込まれていました。というのは、双子の兄が極めて低体重で生まれ保育器に入れられていて、その命を失う危険があったからです。いわば、死というものが、私の人生の道程に招かれていたのです。これらすべての悲劇的な出来事のせいで、私は年月とともに、とても防衛的な態度をとるようになりました。私の人生で自分が関わることをすべてにたいして、私に影響を与えるだろうことをすべてにたいして、私の脆さに作用しそうなことをすべてにたいして、死化させる（痛めつける）という原則を採用したのです。それが愛情面のことであれば仕事面のことであれば友情面のことであれば、です。

10 年前に、私はひとりの分析家を選びましたが、それは彼がある明確なひとつの細部をもっていたからでした。その分析家は、聴衆に向けて講義をする習慣のあるひとでした。ある日、ちょっとした偶然で、私は彼の講義に出席しました。彼が文と文のあいだでとる、呼吸のときの息遣いが、そのとき私をとらえました。それは私の人生の息遣いであり、私自身の呼吸を、その日私はいま見たのです。そういうわけで私は彼との分析を始めました。非常におとなしいその分析家のおかげで、年月を経るにつれ、私は、自分の人生の息遣いを見つけることができるようになりました。彼は私の防衛的なポジションの重圧と仮面とを、少しずつ失墜させてくれたのです。

AMP の HP（最初のページの下のほう）「分析主体によって説明された精神分析」のところから抜粋